

通し番号	4962
------	------

分類番号	30-91-34-02
------	-------------

ワカシの水揚げ及び平均単価の推移と短期蓄養の可能性	
<p>[要約] 小田原魚市場に水揚げされるワカシ（1 kg未満）について、平成29年の月別日別の水揚量、水揚金額、平均単価の推移を調査し、短期蓄養の可能性について検証した。その結果、短期蓄養を行う時期は5月から7月までの単価の低い時期の短期蓄養の有効性が示唆された。また、5月から7月までの時期で水揚量と水揚金額の関係から漁期平均単価を上回るためには1日の水揚量を5,150kg以下にしなければならないことがわかった。</p>	
神奈川県水産技術センター・相模湾試験場	連絡先0465-23-8531

[背景・ねらい]

小田原漁港では、定置網で漁獲された一部魚種の短期蓄養を行っているが、イシダイ、カワハギ、マダイなど数種に限られていることや全体的に定置網の水揚量が下がっていることから、短期蓄養を行う対象魚種拡大し、生産金額を増大させる必要がある。新しい魚種として期待されているワカシについて短期蓄養をすべき時期、効果などについて検討を行い、その可能性を調査した。

[成果の内容・特徴]

- 1 5月から11月くらいまでが水揚される時期であり、5月から7月までの単価がそれ以外の時期と比較すると単価が低い（図1）。
- 2 単価の低迷している5月6日から7月25日までの漁期平均単価は、1 kgあたり30円であった（図2）。
- 3 単価の低迷している5月6日から7月25日の間の1日当たり平均水揚量1,958kgを初めて超えた6月5日を基準とし、それ以降で漁期平均単価を超える日は23日、水揚のなかった日はなかった。漁期平均単価を超える日は、市場開業日（38日）の60%に及ぶことから、短期蓄養による有効性が示唆された。
- 4 5月6日から7月25日の水揚量（X）と水揚金額（Y）との関係式は $Y=169.63X^{0.7973}$ （ $R^2=0.9592$ ）で示された。この式と漁期平均単価をもとに算出された直線式を比較すると、水揚金額で漁期平均単価を上回るためには、水揚量を1日5,150kg以下にする必要があることがわかった（図3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 同様の調査により、他の魚種についても短期蓄養の有効性の検証が可能である。
- 2 小田原魚市場におけるワカシの活魚による流通が少ないため、鮮魚の価格を考慮した調査となっている。
- 3 漁獲量、水揚金額と漁期平均単価の関係は、それぞれのデータが変われば1日の水揚量を抑える量は異なってくる。
- 4 ワカシの短期蓄養技術については、生簀の大きさなどの問題があり、現状ではできていない。

[具体的データ]

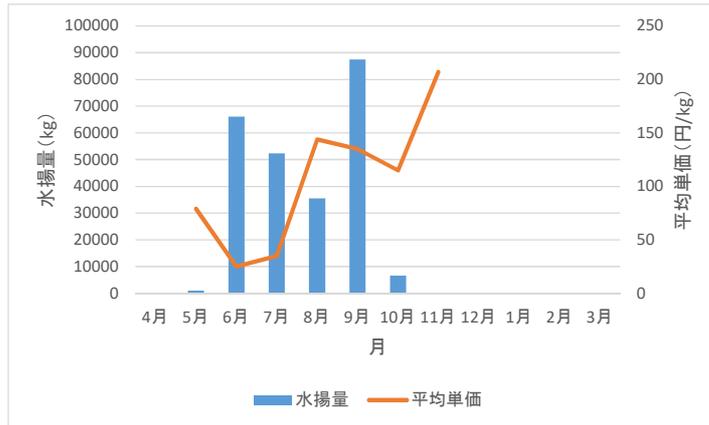


図1 月別水揚量と平均単価

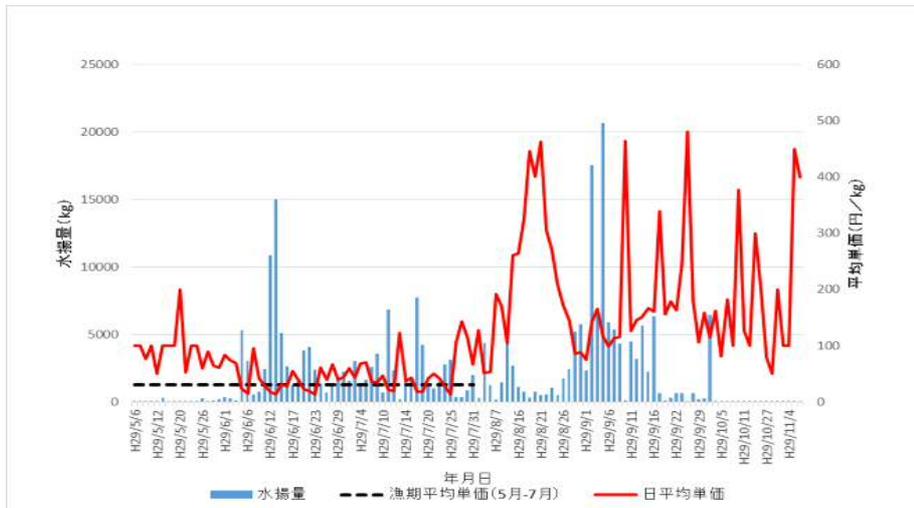


図2 日別水揚量と平均単価及び5月から7月までの平均単価

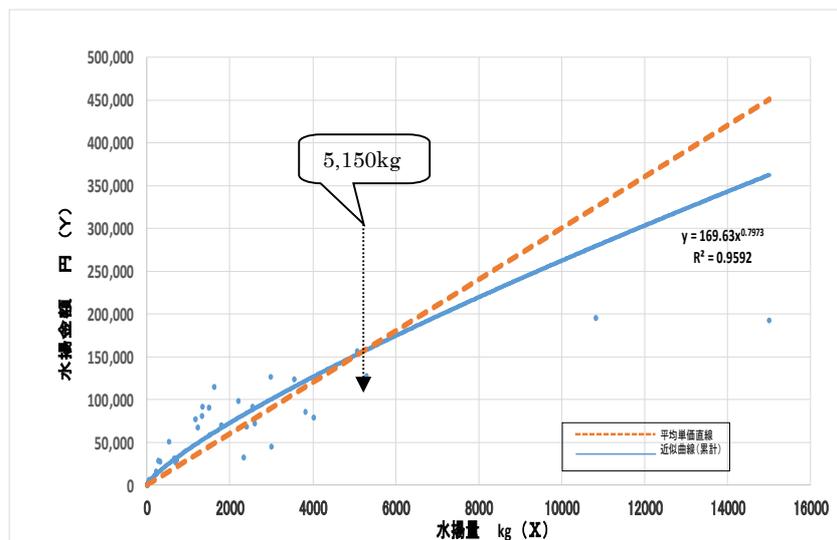


図3 水揚量・水揚金額の関係

- [資料名] 平成30年度水産技術センター業務報告
- [研究課題名] 定置網漁業安定出荷支援研究
- [研究期間] 平成30年度
- [研究者担当名] 鎌滝裕文